

サーキット・ライダー 2004年 5月

ペンテコステ（五旬祭、聖霊降臨日）に思う

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現われ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、”霊”が語らせるままに、他の国々の言葉で話しだした。 使徒言行録 2：1－4.

五旬祭は元来ユダヤ教のお祭りで、別名「春の収穫祭」とも呼ばれ、過ぎ越しの祭りが終わってから50日目に春麦を主体とした穀物の収穫を神に感謝し捧げました。五旬祭や過ぎ越しの祭り、秋の贖罪日及び秋の収穫祭には当時知られていた世界、ギリシャ、ローマをはじめ中近東の国々、エジプトやエチオピアなどアフリカの国に拡散していたユダヤ人達が都エルサレムに集まり、お祝いする習慣がありました。イエスの弟子達もイエスが「都にとどまっていなさい」（ルカ 24：49.）とおっしゃったのを受けて、そのままイエスの昇天後もエルサレムに居て五旬祭を迎えました。すると上述のような不思議な出来事が起こったと聖書、使徒言行録は記しています。これはいったい何を意味するのでしょうか？

今日、五旬祭をキリスト教では「教会の誕生日、創立記念日」と理解しています。それはこの日を境に、弟子達が真実生まれ変わり世界伝道に乗り出したからです。聖霊を受けるまでの弟子達は、イエスが十字架に架けられた時には、皆逃げてしまったり、復活後にイエスが現れた時もすぐには信じられずにいたり、全く臆病風に吹かれ、弟子としての使命をまっとうできずにいました。ヨハネの記述には「弟子達がユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。」（20：19.）とあります。これなどはイエスが復活してマグダラのマリアにその姿を現した後、マリアが弟子達に復活を告げた後のことです。彼らはだれ一人としてマリアの話を信じられずに、迫害を恐れて隠れていたのです。何とも情けない姿でしょう。

しかしそんな弟子達が聖霊を受けた途端、人目を恐れず、しかも色々な国の言葉で大胆に語り始めたと聖書は記しています。不思議に思われる方も多いでしょう。この聖霊とは神の霊であり、ヨハネでは「弁護者」（14：15、26、16：7）、ルカでは「高い所からの力」（24：49）、パウロの手紙などでは「イエスを信じ、告白するよう導いてくれる霊、色々な賜物を与えてくれる霊」（1コリント12章、他）と書かれています。つまり聖霊とはイエスの福音を証する力を与えてくれる神の霊であり、クリスチャンであれば誰もが与えられるものです。勿論、皆が言葉巧みに語れるとは限りませんが、聖霊によってそれぞれが自分のできること、すべきことをする勇氣と力を与えられます。

聖霊を受けた弟子達はその後すっかり変えられ、ある者は近隣の国々へ、ある者はエジプトやエチオピアなどのアフリカへ、またある者はギリシャ、ローマへ宣教に出向いていきました。当時ローマの支配は、北はゲルマニア（ドイツ）の一部（完全にゲルマニアを制覇したのは2世紀始め）ブリタニア（イギリス）から西はスペイン、南は今日のモロッコを初め上述のエジプト、エチオピア、東は今日のサウジ・アラビア、アフガニスタンに及び、ローマ帝国は正に超大国でしたが、その隅々にまでキリスト教は伝えられていきました。それどころかローマに属さなかったインドにまでもイエスの弟子達は果敢に宣教していきました。宣教はキリスト教徒の使命となり、どの時代にも続けられ今日に至っています。16世紀にはイエズス会の聖フランシスコ・ザビエルの熱き思いが実り、日本にも初めてキリスト教が直接伝えられました。

パークリッジの教会では朝はアメリカ人の会衆、午後はインド人の会衆、そして夕方から日本人が集ってそれぞれ礼拝を持っています。更にアメリカ人の会衆を民族的に見てみると北欧系、南欧系、中近東、アジア系、そしてアフリカ系と様々な人たちが集まっています。これら多くの民族が今キリストの名の下に集い礼拝を守っているのは正に聖霊降臨という神からの贈り物があったからだ、改めて思えば思うほど感謝の思いに満たされます。

聖霊の内なる働きは各人違います。しかし聖霊は確実に私達を変えてくれます。聖霊を受けた後、弟子達は力強く伝道に踏み出しました。迫害を恐れずに。彼らの殆どが殉教死しています。しかし彼らの生まれ変わりによって今日のキリスト教が世界宗教になり、日本でもアメリカでも御言葉が伝えられるようになりました。私達もその伝統、歴史の中を生きています。

***礼拝は午後4時から。Jr.教会（教会学校）も4時からです。子供達は初め大人の礼拝に出席し分級に移ります。**

***聖日予定：**

5月 2日：午後3時、聖書研究会、自由祈禱会、3時30分、礼拝、聖餐式、
9日：聖書研究会、自由祈禱会、母の日礼拝、洗礼式、司会：荒美俊三兄
16日：聖書研究会、自由祈禱会、礼拝
23日：聖書研究会、自由祈禱会、礼拝、司会：荒美和子姉
30日：聖書研究会、自由祈禱会、礼拝
6月 6日：聖書研究会、自由祈禱会、聖餐式

***集会、行事予定と報告**

*12日（水）午後7時30分より聖書研究会。教会日本語オフィス。旧約聖書、サムエル記上もしくはペンテコステについて
*18日（火）午前10時30分より聖書の学び。Fort Lee Bethany 合同メソジスト教会で。親と子をテーマに学びます。
*21日（金）午前10時30分より聖書の学び。牧師館にて。ペンテコステについて

***おめでとうございます。**

*4月27日にゴーマン・ロバート兄、由美子姉に第二子が生まれ「シェーン・イッセイ」と命名されました。

おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

*5月9日（日）に坂口 泉姉が洗礼を受けられます。主の祝福が坂口姉の上に豊かにありますように。

***聖書の学び、洗礼準備会、自由祈禱会のお知らせ**

*毎週日曜日、礼拝前の午後3時より、聖書の勉強会を始めました。どなたでも参加できますが、テキストを用意する為、継続参加でお願いします。詳しくは吉松牧師まで。
*また早く来て祈りたい方の為、礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

***御協力お願い致します。**

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）に送ります。J O C Sは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*H O P E（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をH O P Eとしてください。

*昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347
ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅 （201）391-2208 pastor@umc-japan.org
教会学校担当：松尾孝恵姉 （201）802-1769 takae723@hotmail.com